

## 本市の都市づくりに関する動向と主な問題点

## 【動向】

## 1. 人口減少社会、少子高齢社会の到来

- ・当初マスタープラン策定時の平成7年では43万人程度であったが、平成16年を境に減少傾向に入った。平成25年10月で42.2万人。
- ・近年は転出超過傾向が続き、平成25年には対前年比で自然減少△1,812人、社会減少△1,587人、合計3,399人の減少をみている。
- ・65歳以上の割合は、平成7年の14.1%から、平成26年の28.0%と急増している。14歳以下の割合は平成7年の14.2%から平成26年の12.0%と減少している。

## 2. 産業の変化

- ・当初マスタープラン策定時に、浦賀造船所の閉鎖があり、その後、ニチロ、関東自動車、日産自動車など製造業の工場移転が起きた。
- ・その一方で、平成9年の横須賀リサーチパークのセンター1番館・2番館がオープンし、情報通信産業の集積が図られたが、近年は企業の撤退も生じている。
- ・製造品出荷額は当初マスタープラン策定時の平成7年では1兆6,918億円であったが、平成22年には7,009億円となっている。

## 3. 都市整備、市街地整備の状況

- ・当初マスタープラン策定時から、以下の主要整備が行われている。
- 公園：ソレイユの丘、猿島など
- 施設：ウェルシティ開発、横須賀美術館、大滝町再開発など
- ・中心市街地には駅前街区や三笠ビルなど老朽化しつつあるビルも多く、安全と賑わいに向けた建替え誘導が必要になっている。
- ・商店街、大規模な住宅団地、谷戸地域などで空き家の発生が進行している。

## 4. 交通網、道路整備の状況

- ・当初マスタープラン策定時から、以下の主要整備が行われている。
- 道路：横浜横須賀道路の延伸、三浦縦貫道路、久里浜田浦線、坂本芦名線、根岸東逸見線、金谷駿河坂線、安浦下浦線など
- ・横浜方面との連絡強化として課題である国道357号延伸や、横浜横須賀道路スマートIC開設などの懸案事項は進展が見られない。
- ・地域間を連絡する道路も未整備区間があり、ネットワークが完結していないなど、拠点ネットワーク型の都市づくりを支える道路網として不十分である。

## 5. 自然環境の保全、活用

- ・当初マスタープランで、自然環境を保全する開発ルールを定め、丘陵地での開発をコントロールしてきた。
- ・土地利用調整関連条例など、開発をコントロールする体制を整えてきた。
- ・急傾斜地が北地域から東地域の市街地に多くあり、がけ崩れ等の危険性がある。

## 6. 都市魅力や市場性

- ・横須賀市には海と山と独特の歴史・文化があり、都市の魅力を形成している。
- ・当初マスタープラン策定時には、定住人口の増加が望めない状況で交流人口の増加による都市活力の形成が目指されていた。
- ・周辺都市の観光入込状況では、鎌倉市、藤沢市に次ぐ観光客が訪れている。

## 7. 東日本大震災を踏まえた都市防災への新たな対応

- ・平成23年に発生した東日本大震災を踏まえ、都市防災・減災の対応を自助・共助・公助の考え方によるソフトとハードの総合的な対応が必要である。

## 【問題点】

## 1. 人口の急激な減少、少子高齢化による問題

- ・都市活力の全般的な衰退（消費購買力の減少、住宅需要・産業活動の低下、地域活動・文化活動の衰退）
- ・地域コミュニティの維持の困難性（限界集落化）
- ・公共施設の再整備の必要性（教育施設の再配置、高齢福祉施設の充実、医療需要への対応等）

## 2. 産業の衰退の問題

- ・都市活力の全般的な衰退（職場の喪失、就業者の流出、人口減少の加速、税収の減少）
- ・土地利用の混在（工場跡地の非産業系の利用）

## 3. 土地利用の問題

- ・中心市街地における老朽建築物の更新の遅れ（防災性能の懸念、魅力づくりの遅れ）
- ・商店街の衰退、空き店舗の発生
- ・空き家の増加による防犯、防災環境の悪化
- ・市街地内樹林の管理不足（不在地主）
- ・計画開発地、開発予定地における開発の遅れ

## 4. 交通の問題

- ・広域ネットワークの脆弱さ
- ・地域間のネットワークの整備が不十分
- ・公共交通の利便性の向上
- ・拠点市街地での歩行者、自転車環境が不十分

## 5. 自然環境の問題

- ・市街地内樹林の適切な保管理
- ・市街地調整区域内山林の適切な保全活用
- ・適切な開発コントロール
- ・海浜の保全、浸食防止

## 6. 横須賀の魅力のアピール不足

- ・「遠い」「怖い」「暗い」イメージの払拭
- ・海、山、国際イメージの浸透不足
- ・あらたな魅力資源の創出（海軍カレー、軍艦、軍港めぐり、産業遺構）
- ・個性ある居住地

## 7. 大規模災害対応の問題

- ・既に改訂した、横須賀市地域防災計画を踏まえた大規模災害への対応

## 【現マスタープランでの「都市づくりの課題」】

課題1： 拠点ネットワーク型の都市づくり	歩いて暮らせる拠点ネットワーク型都市構造の形成 持続可能な都市づくり	主要な駅周辺等に拠点市街地の形成 安全・快適に歩いて暮らせる生活圏の形成 公共交通の連結による生活利便性の確保 既存の都市機能・ストックの有効活用、維持管理縮退する郊外市街地の管理・活用
課題2： 総合的な交通ネットワークづくり	首都圏の広域交通ネットワークへの円滑な接続 拠点市街地の連携を強化する交通ネットワークの形成 拠点ネットワーク型都市構造を実現するための交通基盤の整備	広域幹線道路網への接続点の充実 広域自動車交通の双方向性 海岸部国道のバイパス機能を持つ幹線道路の整備 東地域と南地域・西地域を連絡する幹線道路整備 地区幹線道路・主要生活道路のネットワーク形成 拠点市街地等を結ぶ公共交通機能の利便性向上 歩行者や自転車や公共交通を重視した道路空間の再構築 ユニバーサルデザインを考慮した歩行空間の創造
課題3： 環境共生の都市づくり	自然と調和し、良好な環境を持つ市街地の形成 地球規模の環境問題への配慮 個性豊かな都市景観づくり 災害に強い安全なまちづくり	海にひらき、水に親しむ市街地の形成 丘陵にひらき、緑に親しむ市街地の形成 自然環境に配慮した、都市施設の整備 環境にやさしい社会資本の構築 魅力的な街並みや潤いのある居住環境の創出 防災性の高い市街地環境の形成 災害時の救援体制の強化
課題4： にぎわいの都市づくり	人がにぎわうまちづくり 計画的な新産業拠点の形成 都市拠点地区の機能強化、再整備	交流を促し、都市や地域コミュニティの活力を維持増進 若い世代の定住を促進する魅力ある市街地形成 安全で安心して子育てできる環境づくり 魅力的な観光資源の充実とその連携 高速交通の利便性を活かした横横道路IC周辺の整備 産業活動の維持・向上や新たな産業基盤の育成 拠点商業業務地の快適な都市空間整備、高次都市機能立地工場跡地などの再開発、土地利用更新の促進
課題5： 市民主体のまちづくり	市民とともに進めるまちづくり 個性が反映された魅力ある都市づくり	

2013年の人口移動・転出超過数が全国最多

## 都市マス改定にあたっての主要課題（都市の縮退を魅力化に転換）

## 1. 都市活力の維持

- ・人口減少への対応（30代、40代の社会減を抑制）
- ・中心市街地の活性化、都市機能集積強化
- ・地域の拠点市街地での機能強化
- ・周辺市街地の再生（空き家への対応、生活サービス機能の充実）
- ・産業活動の場の適正配置
- ・首都圏の広域交通ネットワークへの便利な接続

## 2. 都市の魅力の発信

- ・海と山の魅力を活用した都市づくり
- ・歴史文化を活用した都市づくり
- ・環境共生型の都市づくり

## 3. 暮らしやすい環境の形成

- ・多様な居住環境の形成（都市型住宅、住宅団地再生、自然調和型住宅）
- ・高齢者が暮らしやすいまち、子育てがしやすいまち
- ・生産年齢人口の世代に選ばれるまち

## 4. 安全で安心な都市づくり

- ・東日本大震災後の都市防災、減災への対応
- ・災害に強い安全なまち
- ・道路、トンネル、上下水道等のインフラの長寿命化と適正更新

## 5. 市民・企業等の参加による都市づくり

- ・多様な主体が参画する都市づくり（管理、運営、事業への参画）
- ・地域運営協議会等と連携した地域課題への対応

## 【社会情勢や制度等の変化】

1. 全国的な人口減少（急速に進む少子高齢社会、限界集落化した地域の出現、高齢福祉サービス需要の増大）
2. 産業のグローバル化（生産拠点の海外移転、地域経済活動の停滞、就業機会の減少、土地利用の変化）
3. 地球環境への配慮（省エネ、再生可能エネルギーの活用、資源循環型社会）
4. 東日本大震災を踏まえた都市づくり（事前復興計画、広域防災連携、自主防災、津波対策、地域医療強化）
5. 東京オリンピックに向けた動向（オリンピック関連施設の整備など）
6. 法制度等の改正など（都市機能立地適正化、コンパクトシティの誘導、国家戦略特区など）